



そばを楽しむバスツアー

そ ばを楽しむ体験ツアーが11月11日(土)に大石田町と尾花沢市で行われました。これは北村山高校家庭クラブ「そばガールズ」が企画し開催されたもので、同クラブでは年間を通じて地域の食材そばを使った料理やスイーツの研究に取り組んでいます。体験ツアーには22名が参加し両市町の名所などを巡りながら、あったまりランド深堀ではそば打ち体験を、「KOE no KURA」ではそば殻を使った染物作りなどを楽しみました。このうち染物作り体験では、参加者が高校生から指導を受けながらつまようじや割り箸などを使ってハンカチに絞りの模様を入れ、あったまりランド深堀の温泉を使った染液に浸して独特の色合いのオリジナルハンカチを作り、それぞれ異なる模様の作品を見比べていました。

おはなし会でおむすび作り

町 立図書館で「おいしいおむすびのおはなし会」が11月8日(水)に開催され、未就園児とお母さんや祖母など約30人が山形の新しいお米「雪若丸」を使ったおむすび作りとおむすびを題材にした絵本の読み聞かせを楽しみました。

これはJAみちのく村山大石田米生産部会と町の食生活改善推進員連絡協議会の協力で行われたもので、「おむすびころりん」「おにぎりくんがね・・・」などおむすびが題材の絵本や紙芝居の読み聞かせのあと、JAみちのく村山の職員がお米の栽培と「雪若丸」についてPRしました。雪若丸は来年本格的に販売が始まる新品種で、しっかりとした噛み応えが特徴。参加者は、親子でおむすびを一緒に作り、噛み応えなどを確かめながら味わっていました。



親子一緒に陶芸体験

親 子陶芸体験教室が次年子窯で11月5日(日)に行われ、町内の子どもと保護者15名が陶器作りを楽しみました。教室では次年子窯の高橋廣道さんの指導を受け、参加者らは思い通りにならない粘土にてこずりながらも、親子で協力して皿やカップなどを作っていました。

参加した子どもは「うまく形が作れなくて難しかったけど、パパと一緒にできて楽しかったです」と話し、また一緒に参加したお父さんも「子どもと協力して作品を作るという体験はなかなか出来ないの、とてもよかった」と話していました。



芸術の秋華やかに

大 石田町芸術祭が9月1日(金)から11月13日(月)の期間に開催され、大石田町芸術文化協会に加盟する団体などがそれぞれの分野で日頃の練習の成果を披露しました。

今年は町民交流センター「虹のプラザ」で行われた県民芸術祭の開闭幕式・記念公演と合わせて絵画や書道などの作品展示が行われたほか、11月3日(金)文化の日には「虹のプラザ」多目的ホールで「歌と踊りの合同公演」が開催され、町芸術文化協会に加盟する団体による歌や踊りの華やかな公演が行われました。また、エントランスでは「小原流いけばなこども教室」の児童による生け花や町内の小中学生による工作や書道などの展示もあり、多くの方が訪れて芸術の秋を満喫していました。



お散歩コース自分たちできれいに

お 散歩コースのごみ拾いを大石田保育園の園児が10月31日(火)に行いました。保育園では地域交流活動の一環として年に3回、保育園周辺の歩道でごみ拾い活動を行っており、この日は年長組と年中組の園児21名が参加しました。

保育園周辺では地域の清掃活動によりごみは少なくなりましたが、子どもたちはタバコの吸い殻や小さなビンのかげらなどを見つけると「あった!」「あぶないね」などと声を上げながらごみ拾いを行いました。終了後にはクラスごとにごみ捨てのマナーを学び、園児は「ごみは外に捨てないでちゃんと持ち帰ります」「お家に帰ったらお父さんにも教えます」と話していました。



大きい自然薯採れたよ

自 然薯の収穫体験が大石田南小学校で11月10日(金)に行われました。南小では毎年6年生児童が春に種芋植えと秋の収穫体験を行っています。この日は児童15名が、大石田町新作物開発研究会(海藤明会長)が管理する学校脇の畑で収穫体験が行いました。収穫体験には研究会のメンバーのほか、研究会に苗を提供し、自然薯を使った料理を開発している村山産業高校農業部の生徒も参加しました。

児童らは研究会のメンバーの指導のもと土を掘り起こして、大きく成長した自然薯を次々と収穫し、友達と大きさを比べあがりて収穫を喜びました。学校ではこのあと収穫感謝祭を開いて自然薯料理を楽しむことにしています。

